



KAHF ニュースレター

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9 京大会館116号室
財団法人 京都国際文化協会内
京都ホストファミリー協会 (KAHF)

NO.7

2008.3発行

KAHFファミリーの皆様お変わりなくお元気にお過ごしでしょうか。
日ごろは留学生のお世話や、会の活動に何かと御協力くださいます誠
にありがとうございます。

この活動もお陰様で発足から既に23年も過ぎ、1400人を超える留学生
のかたがたのお世話をすることが出来ました。今なお交流が続いてい
て、母国等での活躍の様子を見聞き出来るのも本当に嬉しいものです。

振り返りますと、発足初期の頃に比べて留学生の数も増え、留学生間
の連携も広くなり、社会状況のいろいろな面での変化もあって、留学生
との接し方も少々変化してきたようにも思われます。

発起人として長年お元気にご指導くださいましたお一人の吉田文武先
生も昨年他界され、ご冥福をお祈りしますとともに、志を引き継ぎさら
に会を発展させねばとも考えます。

KAHFも少々高齢化気味になって参りました。お若い方々のご参加をお
待ちしていますし、又ご紹介も頂ければ幸いです。

留学生の卒業・転学・帰国・学位取得・結婚・出産などの事情変化な
ども世話人にお知らせ頂き、ファミリー全体のニュースとして共に喜び
合えるようにしたいものです。

以下にご紹介しますニュースレターをお読み頂き、いろいろなご意
見、ご提案、御知らせ等頂ければ幸いです。

今後ともいついつまでも御協力くださいますことを重ねてお願い申し
上げます。

Aブロック世話人 植村 舜一

2008年度の行事予定

- 4月20日(日) ケーキパーティー *詳しくは別紙案内をご覧ください。
- 5月18日(日) ハイキング
- 7月 船鉾・岩戸山参観
- 秋 防災センター見学
大原パーベキュー
- 2009年1月11日(日) 新年会
- 2009年3月 総会(ファミリーの集い)



⚠ 開催時期は変更になる場合があります。また、予定に無い行事が追加されることもあ
ります。その都度ご案内を差し上げますので、ご覧ください

ロゴができました

お気づきでしょうか?

ニュースレタータイトルの
左横に、このたび新しく製
作されたKAHFのロゴを入れま
した。今後、KAHFからのご案内
内や発行物にはこのロゴが
入ります。

デザインをしたのは京都精
華大学大学院に留学してい
る 謝 瑛 さんです。ご
本人と謝さんのホストファミ
リリーの西村隆治、佐紀子
ご夫妻の言葉を6面に載せ
ています。

目次

吉田先生を偲んで	2
西先生を偲んで 藤田先生を偲んで	3
KAHF この1年	4 5
留学生と私 No.1	6
KAHFロゴのデザイン について	
2007年度 受け入れ留学生	7
新入会員・退会 ファミリー・計報	8

KAHFの創立メンバー(発起人)で、中心となって長らくご活躍いただいておりますお三人の先生方が、この1年強の間に相次いでお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

西 朋太 先生 平成18年 2月10日享年87歳、昭和56年京都大学を定年退官(エネルギー理工学研究所)

藤田 博 先生 平成19年 3月28日享年84歳、昭和61年大阪大学を定年退官(理学部)

吉田文武 先生 平成19年 9月 5日享年94歳、昭和51年京都大学を定年退官(工学部)

先生方のご活躍を間近に見てこられた方々に偲ぶ文を書いていただき、特別記事としてまとめました。

吉田先生を偲んで 西 芳子

フルブライト留学生として米国で研鑽を積まれた吉田先生は、かねてより、京都在住の留学生が神戸や大阪の集まりに出かける姿を見て、是非京都にも留学生が気軽に相談できる組織を作りたいとお考えでした。

1984年3月、吉田先生ご夫妻のお呼びかけで、私共6家族の夫妻も発起人となり、京大会館に集まりました。その席上、先生から私が所属している大学婦人協会にも声をかけて、会員を募って欲しいとのご要望がありました。皆様のご努力で、忽ち60家族の会員が集まり、事務局は白石夫人厚子様理事をなさっている京都国際文化協会の事務局(京大会館116号室)に設けさせて頂き、留学生の申込書は京大学生課の留学生掛にお預けしました。

名称は「京都ホストファミリー協会」となり、吉田先生の海外の友人の提案で、Kyoto Association of Host Families とし、その頭文字をとりKAHF(カーフ)として今日までつづいております。

翌1985年1月20日に第一回の留学生と会員の懇親会を、吉田夫人順子様のお世話で同志社女子部の同意会館で開く事が出来ました。テーブルに並べられた会員手作りの料理を囲み、和気あいの雰囲気にもまれ、楽しい一時を過ごしました。

同年3月にはKAHFニュース第一号が発行され、会員も100家族に達しました。

翌年1986年1月19日に、関西セミナーハウスで新春パーティーを開き、会員の提案で同時にバザーを開催し、会員手持ちの品や会員外の寄贈品を準備し、約2時間足らずで完売となり、売上金はKAHFの運営に使わせて頂きました。この新春パーティーとバザーの形式が定着し、現在に至っております。

吉田先生は会員相互の交流を深めることに留意され、創立翌年1985年7月10日に、京都信用金庫河原町支店の3階ホールで、神戸のYMCAや大阪の商工会議所の留学生担当の方々を招き、お話を伺い参考にさせて頂きました。其の後も毎年1回は会員が集まり、お互いの体験を語り合う機会をもちました。

1989年5月、会員も留学生も多くなり、運営上、A B C Dの4ブロックに分かれ、それぞれ世話人を決め、世話人代表を吉田先生にお願いし、他の諸



山歩きがお好きだった吉田先生

団体との渉外に当たって頂きました。1990年から会員が一堂に集まり、持ち込みのご馳走で開くパーティー会場が無くなり、遂に全体で集まる行事は取り止め、各ブロックでそれぞれの催しをして、その報告をKAHFニュースに発表することになりました。先生はブロックの世話人会には必ずご出席になり、いろいろご指導下さいました。

先生はいつもお元気で、ハイキングを楽しまれ、行事にも参加され、留学生との親睦を深められました。またご健脚で、最近も4月に開くケーキパーティー会場の階段を手摺も持たずにトントンと昇られるお姿が今でも目に浮かびます。

吉田先生が提唱され、手探りで始めたKAHFが20有余年も長く続いたことは、一重に会員、そのご家族、ご友人をはじめ大学関係の皆様のご協力、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

吉田先生が灯されたこの灯を決して消さないで守ってゆきたいと念願しております。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

西先生を偲んで 阪田 敦子

Bブロックのリーダー西朋太先生ご夫妻の留学生に対するお気持ちが、どんなに篤いものであったかということを紹介させていただきます。

西先生は、留学生を会員に引き合わせる際には、必ず前もって個々の留学生と面接をされ、本人の現状や受け入れ先への希望などを、顔写真のある申込書へ詳細に記入しておいて下さいました。したがって、それぞれのご家庭に適した留学生を紹介することができました。数多い留学生に対するこの面接は、時間とご苦勞の要る大変なお仕事でありました。ご自身も、いつも大勢の留学生を引き受けておられました。

新年パーティの準備では、毎年ご夫妻で中央市場へ買出しに出掛けられ、パーティに必要なものをすべて整えて来て下さいました。経済的にもずい分支えてくださっていたと思われま。あまりにご負担がかかるので、もう少し簡素化しては、という意見が出たこともありましたが、先生は「留学生達が喜んでくれるから」とそのままの継続を望まれました。その他、先生のご偉業は余りに多く、ここにお伝えできないことを残念に思います。

一昨年の新年パーティでは先生はお元気で挨拶



2003年4月 KAHFのケーキパーティーで
(写真中央)

のお言葉を述べておられましたのに、その一ヶ月後にご急逝とは信じ難いことであります。

先生のご遺志を継がれた奥様をはじめ一瀬様、岡村様、熱心な会員の方々により今年も新年のパーティが開催されましたが、今回はAブロックからも大勢のご参加を得て大盛會に終わり、西先生はさぞお喜び下さっていることと思ひます。



解説者になりたかったほどの
野球ファンだった藤田先生
(2004年、ご自宅前で撮影)

藤田先生を偲んで 中島伸江

「食べ物たっぷりお願いしますよ！」Aブロックのパーティの折、しばしば耳にした先生のお声です。理系の先生はその大柄でがっちりした体型の様に、いつも筋の通った話を大きな声で明快にされ、「内緒話が絶対に出来ない人なのですよ」との奥様の言葉どうりの方でした。

世話人の仕事の一つ、新しい留学生の面接を大事にされ、現在より数が多い入会希望の学生達に根気よく面接カードを送り、カーブの説明や、こちらの生活に早く馴染むように一般生活上の注意など、様々していられました。後に耳が遠くなられてからは、話に力が入ると声が大きくなり学生が緊張してしま

うので、時に私たちが横から笑顔で話しかけたりしたことを、今懐かしく思い出します。

恒例のパーティの折など皆が楽しく過ごせるように心を配られ、終わりには先生作のあみだ籤を前面に大きく張り出し、わいわい賑やかに会を閉じるのが度々のことでした。

10年余のご活躍のあと休会されてからは、お宅を住みやすく建て替えられ、足の弱い奥様といつも一緒に行動され、いたわりあって過ごしていられましたが、病のため昨年3月桜の便りの中、暖かいご家族の元から旅立たれました。84才と伺いました。「先生、大変お世話になりました。振り返ると思い出が溢れています。」

カーブでの藤田先生の略歴
阪大退官後、足元間もないカーブに入会、
Aブロックのリーダーとして活動。
1998年、耳が遠くなられ休会。
2007年3月28日ご逝去。

この1年

写真展

9月16日～30日

多数の会員の協力を得て、府国際交流センターで、「KAHFの活動の写真展」が開催されました。1984年発足以来、先人達の労苦を基礎に、四半世紀に亘る留学生支援・国際交流活動は、KAHF会員相互の理解と協力のもとに、地道且つ着実な努力が継続されているものを確信しうる写真展であったと思います。

一枚一枚の写真を見ますときに、たんなる「一シーン」にとどまらず、この

世界の国からこんにちは！



シーンを生み出すまでの会員各自の深い思いと協力がその背景に描写されています。企画・立案・調整・実施・反省。幾多の試練が各会員の脳裏に鮮明に蘇らせてくれたのではないのでしょうか。

でも、その多くの労苦も、留学生達の底抜けに明るい笑顔や、会員の充実感に満ちた表情を見つめると、疲れも吹っ飛び、すべて良き思い出として、「心地良さの残像」としてのみ刻んでくれたと思います。又、明日からのKAHFの活動の励みに微力ながらも歩を進めたいと思います。

R. N. S. N

琵琶湖環境学習旅行

10月21日

10月21日（日）、バス2台を仕立てて琵琶湖東岸方面に旅行しました。A、Bの共同企画で参加者は、ファミリー45人、留学生65人の合計110人（自家用車での参加者10名を含む）でした。8:30に京都大学時計台前を出発、大津から湖岸の景色を眺めながら、烏丸半島にある滋賀県立琵琶湖博物館を見学、琵琶湖についての勉強をしました。昼食の後、午後は「さざなみ街道」を通過して近江八幡まで、近江南人の旧屋敷、八幡堀などを散策後、帰途につき、琵琶湖大橋（「道の駅」で休憩と橋の中央部までの散歩）、湖西道路を通過して18:00に



琵琶湖大橋を望んで記念写真

帰京しました。お天気もよく、近いようで遠い琵琶湖について認識し、また、ファミリーと留学生の交流を深めることができました。また、ガイドさんの代わりをされた、O様（1号車）、T様（2号車）の名（迷？）調子も旅行に華を添えるものでした。この旅行は、一部京都市国際交流協会の助成を受けて実施したものです。深く感謝いたします。

M. T

新春親睦パーティー

1月13日

恒例の新春親睦パーティーとバザーは皆様のご協力で盛会になりました。今回はAブロックの皆様にも広くご案内を差し上げたところ多くの方々にご参加いただき、A、Bあわせて、ファミリー83名、留学生115名、総勢約200名のご参加となりました。親睦会は西村隆治様の司会で始まり、阪田 潤様のご挨拶、猪野 愈様の乾杯のあと、留学生、ファミリーの交流、歓談に移りました。今年は京都府名誉友好大使 内蒙古出身の留学生 烏日哲さんの民族舞踊を鑑賞しました。その後子供さんたちへお年玉が配られ、和気藹々と進行しました。その後バザーが始まり定刻無事終了しました。また、KAHFの活動を紹介する写真展示も同時に行い、多くの留学生が興味深げに見ていました。

大勢の参加者で賑わう会場



当日、バン格拉デシュサイクロン被災者支援のための義捐金が4000円になりました。

丁度、日本YMCA同盟が上記募金をこの3月末日まで行っていましたのでそちらへ送金しましたのでご報告いたします。

ご参加いただいた皆様方や、準備、設営、後片付け、バザーへの出品、ご寄付など各方面での皆様方のご協力でこの催しが順調に実施できましたことを皆様とともに喜びたいと存じます。有難う御座いました。

E. I

留学生と私 NO. 1 新井陽子

タイのバンコクからの嬉しいニュースをお伝えしましょう。

1999年5月頃からホストファミリーとしてお世話した留学生のチューターさんから、ほのぼのとした家庭の様子を伝えてきてくれました。

最初は日本語の勉強を少しヘルプしてあげていたのですが、とても理解の早いスマートな女子学生でした。論文の発表会にも参加しましたが、落ち着いて、しっかりしたものでした。日本語検定の試験もパスし、あっという間に一年が過ぎました。彼女の二年間滞在の予定の二年目に幸運が、やってきました。ある日彼女はボーイフレンドを連れてきて、紹介してくれたのです。体格がっちりしたとても頼りがいのある青年でした。



チューターさんとご家族(タイの自宅にて)

最初別々の住まいであったのが、終わりにには一つの住まいにまとまって、とても仲のいいカップルでした。最終二人は日本語検定一級に挑戦し、見事パスしたのです。帰国して直ぐ結婚し、長男に恵まれ、あれよあれよと思ってるうちに二番目の女の子が授かって幸せ一杯です。

彼女は子供をとってもやさしい暖かい目で見守っているのが、便りからよく伺えました。御主人も the president of Young Engineer at the Engineering Institute of Thailand に選ばれ、お父さんの後継者として信頼が置かれているようです。当時のアプリケーションを紐解いて、ホストファミリーへの希望の欄に long term friendship と書いてありました。いつの日か会えるのを楽しみにしています。

ロゴができました

京都精華大学大学院 芸術研究科
博士後期課程 デザイン領域

謝 瑛

昨年の四月頃に、私のホストファミリーである西村隆治・佐紀子夫妻からKAHFのロゴデザイン提案の依頼を受けて、KAHFの「人と人の心の繋がり」を表現するとのキーワードを頂きました。

このキーワードを核として、一本の赤い糸で結ばれるハートで構成することと致しました。KAHFの理念を、ハートの形を土台にした「日本人の心の文化と精神性」を如何に表現出来るだろうかと考えました。やはり、「桜を愛する心」ではないかと思いました。

寒い冬を越えて春を待ち望み、春の訪れと共に一斉に咲き、儚く散り行く潔さが、その心を表しているものとおもいました。満開の桜だけではなく、風にひらひらと散り行く桜の花びらにも儚さを感じる日本人の繊細な感受性と無常観となって日本固有の文化を創ってきました。日本人の美意識や気質を理解することを通じて、国際理解を深める人間関係の絆のなかで表われる心意気が、今日まで伝えられてきたように思います。



こうしたコンセプトのもとに、ハートのマークで五枚の桜の花びらを五大陸と見立てて、世界が手を結び、中心に日本国旗の赤い太陽を花の芯として配置しました。京都で勉強している外国人留学生と交流しているKAHFの方々との繋がりがこそが、国際交流の輪を、深く広く発信する原点の明らかな象徴であることを表現しました。

謝 瑛 君へ

西村隆治・佐紀子

KAHFの理念を良く理解し、日本人のもつ心象を捉えての謝瑛君の製作に感謝しています。四半世紀にも亘るKAHF活動の原点に立ち戻り、先人・先生方の意思を伝承すべく、今後の活発な交流のシンボルとしてのロゴ製作に、微力ながらも参画させて頂いたことに幸せを感じ、深く感謝いたします。